

代表謝辞

私は、2年生のとき、はじめて発明くふう展の作品を作りました。

「アイデアいっぱい虫とりあみ」という作品です。

こんなものがあつたら便利だな と思い、作りはじめました。

上手くいかず、一度はあきらめかけたけれど、試行錯誤しながら作った結果、「発明協会 会長 奨励賞」に選ばれました。とてもうれしかったです。

それから 毎年、夏休みの自由研究で 発明品を作っています。

発明ノートをつくり、日頃から思いついたことを 書き留めるようにしています。でも、いくらよいアイデアがうかんでも、実際に作れないと 発明品にはなりません。仕組みや材料をいろいろと検討し、何度もやり直し、一つの作品が出来上がるまでには とても時間がかかります。でも、出来上がった時の達成感は とても大きいです。

今年は、「自動点眼機」という作品を作りました。私は、目薬を一人でさすとき、なかなか目の中に入らなくて困っていました。ある時、目薬をさしてくれる母が、「温かい手で持とう、すべて目薬が出てくる。」と言いました。そこで、私は、目薬の容器の中の空気が、「温まるとうららむ」という性質を利用して、「自動点眼機」を作ることを考えました。

今回、この作品で初めて「福岡県知事賞」をとることができ、とてもうれしです。

私が、このすばらしい賞をとれたのは、私の力だけではありません。

作品づくりを手伝ってくれる両親や、日頃指導してくださる学校の先生方、毎年発明くふう展を開いてくださる発明協会の方々、また、作品の審査をしてくださる方々、皆さんのおかげでこの賞を頂くことができました。

私はこれまでこの賞を取ることを目標に頑張ってきました。

しかしこれからは、たくさんの方が発明で幸せになるように、作品作りに取り組んでいきたいと考えています。

本当にありがとうございました。